

<速報>

ご当地沖釣り事情

<予測>

< 遠州灘・伊勢湾・若狭湾 >

伊勢湾 “落ち前” の

ウタセ大マダイ釣り

この時期の伊勢湾には、深場へ『落ちる前』のマダイが、体力増強のために、一時的に集合する場所が数ヶ所あります。

11月16日（土）釣行した“西度合”もその一つです。

私は、『落ち前』の大マダイを狙って、毎年数回ずつ釣行します。以下、この時期のウタセ大マダイ釣りのポイントをお知らせしましょう。



エビの刺し方・タナの見極めが必須！

「エビのハリへの刺し方」の上手い下手が、ウタセマダイ釣りの釣果の80%を決めると言われています。揺れる船上でもエビを上手に刺せる技術を乗船前に修得しておきましょう。エビの刺し方には「鼻掛け」「尾掛け」「ちょん掛け」などがありますが、「鼻掛け」が一般的です。口からハリ先を入れ、脳ミソを避けて背中の中真ん中に1~2mm程ハリ先を出します。釣りの最中、仕掛けを引き上げた時に、枝糸が幹糸などに絡んでいなければOKです。



「仕掛け」は、幹糸フロロカーボン7号・枝糸6号2m3本・伊勢尼バリ12号のもの。少し太仕掛け過ぎると思われるかもしれませんが、この時期には、マダイと同じポイントで、7~10kgのブリやスズキが食ってきます。又、この時期のマダイは、太い糸をあまり気にしません。続いて、捨て糸の長さですが、この時期の第一投目には3mを使います。その後、釣り場の状況を見ながら、特にタナの深さにより、長さを調節します。【予備の捨て糸2m・3mのものを2本ずつ持参しています。】

「タナ（摂餌層）」の見極め方は、仕掛けを上げてみて、3本バリの一番下のハリのエビが齧（かじ）られたり、無くなっていたりする深さをタナと想定し、そのあたりを重点的に攻めます。エサが3本とも、齧られたり無くなったりしている場合は、それまでより上のタナを探して下さい。タナは、時間により、場所により変化しますので、常にタナ合わせを行って下さい。なお、タナに関しては、“秋は底を、春はタナを探れ”が定説になっています。

アタリが無くなった時の対応は？

伊勢湾の船釣りでは、船上で通常6時間程、魚と格闘します。釣りの最中、アタリの止まってしまう時が必ず数回訪れます。潮止まりで、完全にアタリが止まってしまった場合以外、下記のようなテクニックを使って、アタリがでるよう工夫して下さい。

1. タナを変える（⇒タナが決まったら、捨て糸の長さを調節する）
2. 釣法（⇒誘い方・筆者の私的分類）を変える。または、複合釣法を試す。
 - ① 巻き上げ釣法、落とし込み釣法、底流し釣法、オバセ釣法、置き竿釣法など
 - ② 底流しと巻き上げの複合釣法などを試す。
3. 仕掛けを変える
 - ① 枝糸の長さ・糸の太さを変える。
 - ② オモリの重さを変える。
4. 釣り座を変える（釣客が少ない場合、船長の了解を得て）

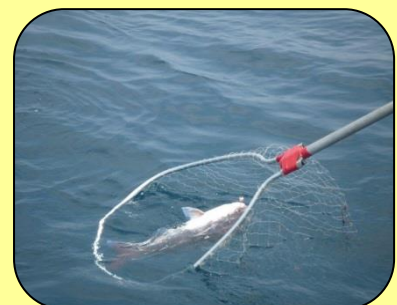
“引けば待ち、止まったら巻く”が大物釣りのキモ！

それでは、大物がハリ掛かりした時のロッド・リールワークをお知らせしましょう。（リールは、事前にドラグ調整をしておいて下さい。リールから道糸が出てくる部分を、力いっぱい引っ張ってズルズルと引き出されるぐらいに調節しておいて下さい。）

最初の魚の引き込みで大物かどうかは判ります。魚の引き込みで道糸が引き出されるまでは、通常のスPEEDで巻き上げて下さい。道糸が引き出されだしたら、無理して巻かず（ドラグ性能とサオの弾力効果を信じて）糸が引き出されなくなるまで待ちましょう。この時の注意は、道糸を絶対に緩ませないことです。そして、道糸が引き出されなくなったら、再度巻き上げを開始しましょう。“魚の引き込みが強い場合は（魚が疲れるまで）待ち、道糸の出が止まったら巻く”が大物征服のキモです。

魚が大きければ大きいほどこのヤリトリは何度も続きます。そして、魚を浮かせ、船に近づけたら、タモですくって船上へ上げましょう。

“糸よ、切れるな・ハリよ、外れるな”と願いながら、魚の強い引きに耐える時の胸の高なり、魚がタモ



入れされ、大きな魚体が船板の上に横たわった時の感動は、釣り人しか味わうことはできません。私が、船釣りを現在まで続けている理由は、“この感動を味わうため”と言っても過言ではありません。

“ライトタックルと太仕掛け” が 好釣果のもと！

最近の私の好釣果の原因は、**運の良さ**と自分の釣りの技術と体力に合った**タックル・太仕掛けの選択**にあると思います。引き上げ力が、従来の中型に劣らない“小型電動リール”（シーボーグ 150 J・グローブライド社）に“全長 1.9mの軽量ロッド”（リーディング 64・グローブライド社）の組み合わせ。ライトタックルに



変えたことにより疲労度が半減。加えて、太仕掛け（伊勢湾ウタセ真鯛仕掛け・ハヤブサ社）に変えたことにより糸切れの不安が一掃され、精神的ストレスからも解放されました。

今年は、夏の異常な暑さの為、魚の動きがおかしく、今後の予測をたてることは非常に困難ですが、12月中旬までは『ウタセ大マダイ釣り』は可能だと思われます。

釣りは“運・鈍・根”（うん・どん・こん）が基本といわれます。運を味方につけ、急がず慌てず、根気よく、釣りをお楽しみください。

なお、私は、70cm（5kg）以上を“大マダイ”と言っておりますのでご了承下さい。

[松岡 隆春 平成 25 年 11 月 21 日]